

つよく・やさしく・心をこめて

三勲小だより



平成30年6月8日(金)

<がんばった運動会>

5月27日(日)に行われた運動会では多くの皆様にご来校いただき、温かいご声援を送っていただきましてありがとうございました。

心配していた雨も降らず、晴天のもと、どの学年も日頃の練習の成果を存分に発揮することができました。また、高学年は演技だけでなく、応援団や係の仕事も精一杯行い、学校のリーダーとして活躍することができました。この運動会を通じて子どもたちは、最後まであきらめないこと、協力すること、自分の仕事に責任をもって取り組むこと、全力を出し切ることなどの大切さを学んだことでしょう。

今年度は、観覧席や入場の仕方など、これまでと変えた部分が多くありました。それらについても皆様からご意見をいただき、今後に活かしていきたいと思ひます。



<全校朝会>

先日全校朝会では子どもたちに、次のような話をしました。

今日ははじめにおいしいもののお話をしますよ。先週の木曜日に給食に出たお団子はなんていう名前だったかな。そう、吉備団子です。吉備団子といえば犬と猿と雉のお供を連れて、鬼ヶ島に行って鬼を退治した桃太郎が思い出されますね。今日は桃太郎のお話をします。みんなが知らないこともあると思いますよ。

岡山では桃がたくさんつくられています。岡山のお土産で有名なのは吉備団子です。岡山駅前には桃太郎の銅像が建っています。見たことがある人もいますでしょう。岡山空港は「岡山桃太郎空港」という名前に変わりました。また、岡山の桃太郎伝説はこの間「日本遺産」にも選出されました。桃太郎のお話は岡山以外にも伝えられているところがありますが、このように最近、岡山の桃太郎は特に有名になってきました。

最初に桃太郎のお話がつくられたのは今から500年ほど前の室町時代だそうです。その頃の桃太郎は桃から生まれたものではありません。おじいさんとおばあさんが川から流れてきた桃を食べたら若くなって、おばあさんが赤ちゃんを産んで、それが桃太郎になったというお話でした。今のように、大きな桃がどんぶらこ流れてきてその中から桃太郎が生まれたというのは、実は100年ほど前に作られたお話なのです。

桃太郎には鬼が出てきます。桃太郎は鬼ヶ島に行って鬼をやっつけて、鬼の宝物を持って帰り、めでたしめでたしとなりますね。

でも、ここでみなさんに考えてほしいことがあります。桃太郎は鬼が悪いことをしているところを自分の目を見たのですか？また、鬼を退治した後、鬼の持っていた宝物をうばって持って帰りましたがそれはいいことですか？

世の中には、当たり前だと思っけていても、よく考えると、このお話のように「おかしいな」と思うことがよくあります。

平成の今の世の中で生まれた新しい桃太郎の話を知っていますか？これは、五味太郎という人が書いた桃太郎の絵本です。そこにはこんなことが書かれています。鬼たちに出会って、そんなに悪者ではなかったことが分かった桃太郎は、鬼たちと仲よくサッカーをするのです。サッカーは桃太郎チームの勝ちでした。次は鬼ごっこをしました。どちらが勝ったでしょう？そうですね。鬼ごっこというぐらいだからもちろん鬼が勝ちました。おもしろいでしょう。

昔から伝えられている桃太郎のお話にもみんなで力を合わせるなど、大切なことがたくさん書かれて

います。でも、あいつは悪いからやっつけるとか、勝手に物をとっていいとか、気に入らないから大嫌いというのではなく、新しいお話のように、よく考えて、相手のよさを見ることも大切なことですね。

今日は、当たり前だと思っけていることも、しっかり考えると、別のことが見えてくるといってお話をしました。みなさんが、誰かのことをあんな人は悪いとか嫌いだとか決めつけるのではなく、どんな人なのかしっかり考えたりいいところを見つけて仲よくしたりすることのできる、現代の桃太郎みたいな子どもになるとうれしいなあと校長先生は思ひます。この本は図書館にもありますからまた読んでみてくださいね。



<三勲小の紹介>

三勲小学校が「三勲尋常高等小学校」だった大正の頃、学校には「試胆会」(きもだめし)がありました。夜の操山の山道を三勲神社の社前100メートルのあたりまでみんなで登り、そこから一人ずつ神前に行って、柏手を打って礼拝した後、あらかじめ先生が神前にお供えしていたおまんじゅうを一個ずつ持って帰るといふものでした。最後の順番になった人が、暗い松林の道をおそるおそる神前まで行って礼拝を済ませて、さて、おまんじゅうはと見ると、お盆の上には一つもおまんじゅうが残っていません。仕方がないので、そのお盆を持って帰りました。先生はお盆を持って帰ったことをほめてくれ、そのままにしていたらもう一度取りに行かせるころだったと言われたので、やれやれと思っけています。おまんじゅうが足りなかった訳は、一人の友達が夢中で二個つかんで帰っていたからだということでした。

(創立70周年記念誌より)



